

1927

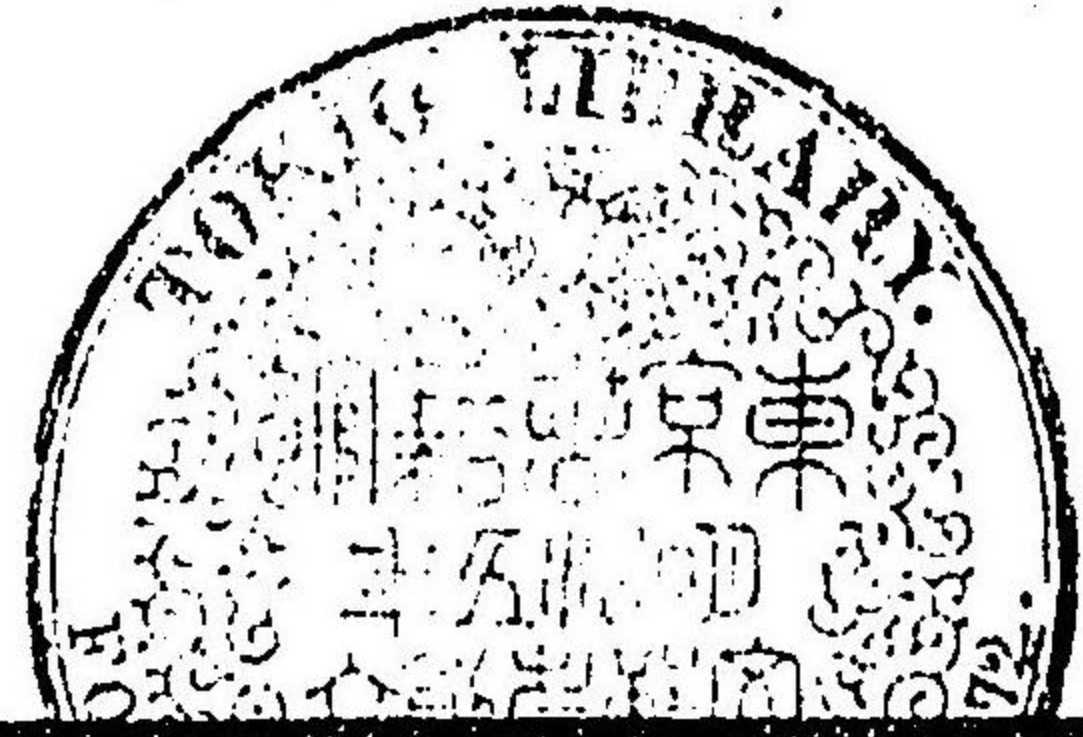
東 京 圖 書 館

七 五 冊	20 七 八 號	六 架	二 六 函	小 說 類	和 書 門
-------------	-------------------	--------	-------------	-------------	-------------

繪本通俗三國志

二編

七



繪本通俗三國志二編卷之七

目錄明治十年交換

曹操分兵拒袁紹

關羽張飛擒劉岱王忠

祢衡赤裸罵曹操

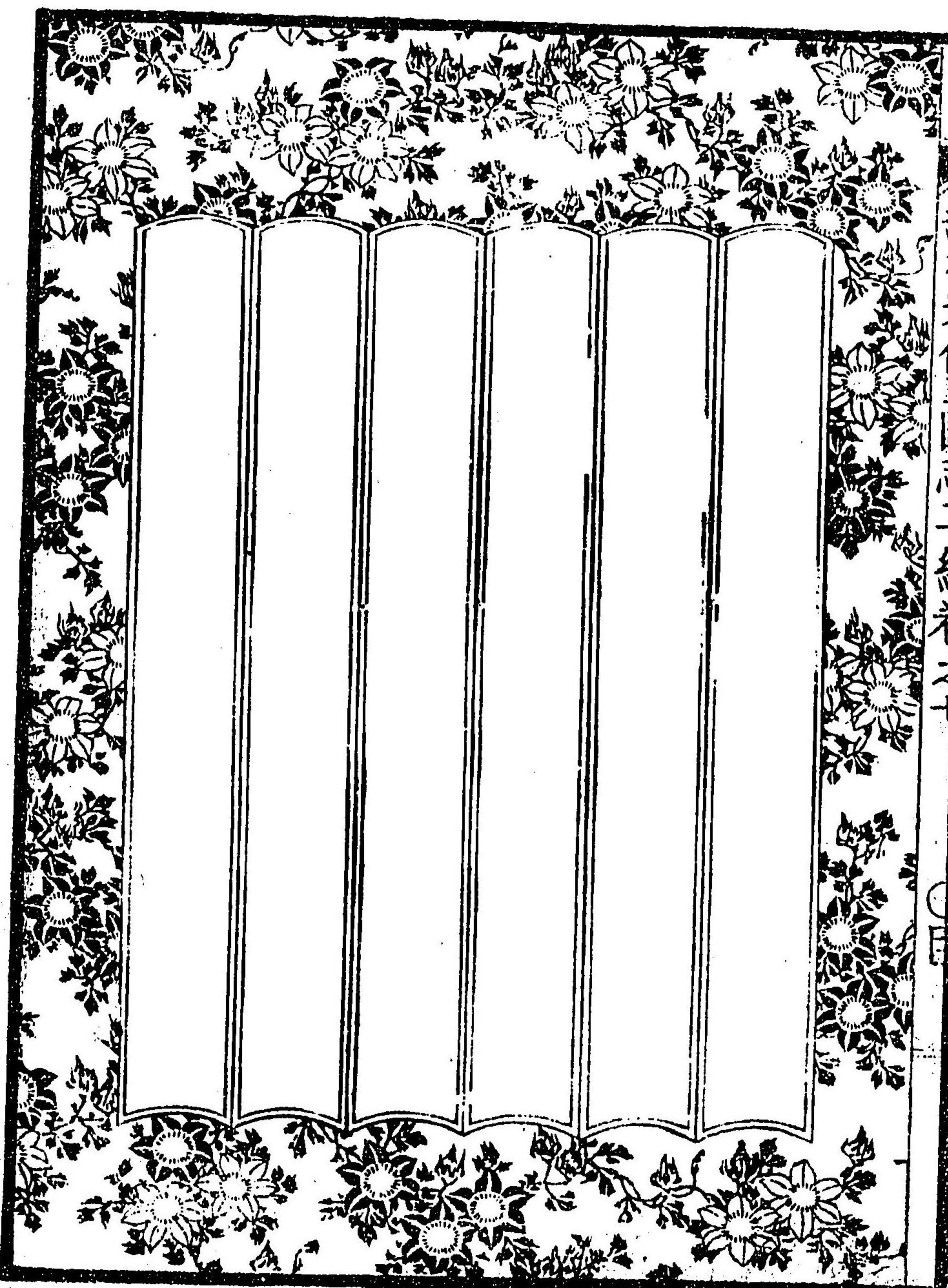
曹操三勸吉平



繪本通俗三國志二編卷之七

曹操分兵拒袁紹

玄徳さぞよ徐州の城に入と。きなり、曹操がひまらえんとと、孔心せの
 へ陳登、Pルる。曹操が常、畏多うよの河北の袁紹あり。いま袁紹
 四州と保ちと。精兵百万。文官、武將、雲霞のごと。もや、出心男と
 送り、御頼とひや。曹操たとい来とも、あんの孔心せり。いづくも玄徳の
 日、あまよきとあの人ども。曾と好とも、結ばず。あまの、さへ弟の袁術と
 りまよとて、減おせり。うぐ、涼た怨おれを、今いうで、我ととと、ん陳
 登、曰、よの處、羊老とる。官人あり、桓帝の御時、尚書たり。い
 康城、高密の鄭玄といふものあり。よの人、袁紹と、三代の通家、ま
 らし、と頼むひと。袁紹は、お寄と送り、しめ、びり、あつ、ねん、玄



徳公の意は從ぐの陳登とも鄭玄が家の行右のありしを考て
再拜して頼るの鄭玄依れとて出方と視入玄徳いと
その書とて孫乾と河北はるはるを教との好むとて
の表紹對面して鄭玄が出方とてその書曰

伏聞漢道凋零奸臣強暴外無匡扶之柱石内無扶策
之棟梁賊臣曹操幽帝許都社稷傾危生靈塗
炭惟明公世居相府天下仰之若天旱而望雲
霓如久涉以思天日倘與劉玄徳協力同心共立
伊尹周公之績名垂青史萬代不磨區々之志
原心聽察焉

袁紹はありとやらの玄徳より弟とありせり我常は仇と報

んと何くんと好むとむと孫乾より玄徳とて其術を
拒むるまはせしむら天子の勅命を傳へて曹操があつて
ころありいま將軍に従ふともは力とあはせ漢室を匡正と
曹操を討つんとわらむと察しぬ袁紹が曰るまはせし
より玄徳の世の英雄あるとあるふり志と改めんとわらむ
を我らあはせしむらとて手下の大將とてよくわはれ大軍
と起しと都より漢を扶て曹操を滅ぶさんと議する一人とて
出で此事をうらむとて諸人はまはせしむら英傑衆を起見識
高明ある鉅鹿の田豐字は元浩とてそのあり辣めりて
羊の合戦打続ひて百姓をまはせしむら倉廩は時ありと
とてさるるの國の涼た夏愛ひありたてよろしく朝廷に貢物

捧げ農と務ら民と安んずるとの時と待て兵と黎陽ませり。
 河内舟と化りと武具ととの精兵と諸處をか邊境と襲ひて
 曹操の兵をとたるとありと三年の内よりねがは定まらんと
 入まると出ると曰はの計策の意よりありと諸人はまことこれを忠烈懐
 慨相自端莊する魏郡の審配字正南といふものあり田豊のむら
 づらるの兵書の法十田五攻敵さるとたすく戦ふいま主公の神武
 河北の精兵と率して曹操と伐むんと掌の内ありあんどいづ
 らは月日を送らんり延引せば後は悔ともあまた又一人まこと出づ
 やく事の計事志るべからざるとし諸人はまことこれを廣平の沮授と
 審配とむらとぞりるるとれ乱とさすといひ暴とのどくまこと義兵と
 いふ衆と恃て強は傲るさまとと驕兵といふ義兵の敵は勝驕兵のま

らど滅ぶいま曹操漢の天子と許昌遷し勅命と号しと天子と
 制さその名義兵の似り況んや妙勝の計畧と用と強暴と恃まざ
 法令すく行はれと士卒精練ありあは公孫瓚とたのむあへんや
 いま万安の計事とまこと無名の師と起さんともまこと自滅とまねる道
 ありとたて郭圖とまこと御辺の意見相違せりい
 武王の討と伐めいといふも天子はまこと不義とせば況んやいま曹操
 と伐るまこと無名の師といふも主公四州の強とまもりと軍士精練將
 校奮勇ありとまこと乗と大業と定まると後に入つて害
 あらへんを所相天の共と取まを及ととの禍と受の理ありと
 れをぬち越の覇するの人もいふも呉の亡るの人もいふも戦の時
 操とんと変は應とすとやとんぬら鄭女とまこと言は従ひて



孫乾の徳の
為に河北へ使す

孫乾の徳の為に河北へ使す

徳とまぬひと。ともにかつ係曹操と滅せしむ。上天意よる以下
 人情は順ひて人々と。四人の義論まじりて。表紹も心なまじ
 ざらぬ。勿心まち外より許攸荀慈二人きたり。袁紹はるが二人多
 く針うらま。鄭玄と送りて兵を起し。玄徳とまじりて曹操を
 滅せしむ。はるがよして義論する。田豊と沮授と兵を起すと
 志る。さうどといひ審配と郭図といひ兵を起せしむ。二人
 とあつて決まらぬ。元來は二人田豊沮授と不和なり。郭図は
 らく賈までかきし。郭図がいかに目くせさる。さうどといひ
 り別多し。中から古より天の兵を起せしむ。人々の其殃と受と
 のり。のりもきひ上り。さうどといひ曹操と審配と先手と。先手
 と制とさうどといひ。延多し。あつて袁紹はまじりて決す。さうど
 都

へ以上るべしと。はるがとて係曹操と審配逢紀と總大将と
 田豊荀慈許攸と謀士と。顔良文醜と先手と。騎馬の勢
 二万歩士の勢八万。都合十方の精兵と。人々の黎陽とははるが進発
 せ。まのりて曹操の都ありと。玄徳もさうと。車曹とあつて袁紹とた
 のんぞ大軍都へ以上るべしと。まじりて。人々の驚を諸大将とあつて。い
 せんと評論せしむ。北海の大守孔融將軍に任せられ。都に還
 り。さうどといひ。曹操を見へて。さうどといひ。袁紹の勢ひ大
 し。さうどといひ。敵がさうどといひ。さうどといひ。文がりと心とさうど
 曹操諸人。さうどといひ。和睦せんと戦ふといつて。さうど
 利をさうどといひ。荀彧といひ。さうどといひ。袁紹の無用の人あり。一戦して打な
 り。さうどといひ。和睦すべし。孔融は白御辺の言人の言を。さうど
 うあり。和睦すべし。孔融は白御辺の言人の言を。さうど

困ひる。民強くして田豊許攸が徒智謀をく。審配逢紀すく
 兵を用ひ顔良文醜勇あつてその外沮授郭図高覽張
 郃淳于瓊ホコまよき世にまれなる谷士あり。あまゆは使入るゆふを
 荀彧笑く。尸るる足下只そのことありと。そのことありむを袁紹兵
 多しといふ。法そのつむ田豊の剛みしと上と犯し許攸の貪りを知
 び審配のめつらふしと計策あり。逢紀の果より用ふ。まよホの人
 なたしは軍とい姪へぞ。あまは内変を仕出さる。顔良文醜も匹夫の
 勇ありた。一戦して生取せん。その外碌たる小おなたとい何百万ありと
 もあま道は足るや。あまはのめ入る袁紹は無用の人とやありといひんを。
 孔融言る。閉口を曹操大に笑く。尸るるあまゆも荀彧が智
 囊を洩しては。を中用意せん。前後両營の官軍を起し。

劉代山王忠二人の五万の兵を授けんと丞相の旗を指せ。徐州に向
 け。女徳をひきよみ。みづから二十万の勢を率ひ。黎陽に出で袁紹
 と対面し。程昱諫ちてやめる。劉代山王忠の女徳が對手に足
 らず。別はまゝの大將とせむ。曹操は。袁紹は。是れ
 未だ是故にむき。丞相の旗を立て。さうさうする体と
 せむ。まゝとせむ。女徳を畏れ。さうさう戦ふ。時方も
 陣を揃へ。さうさう。此間。袁紹は。勝
 らず。乘りよ。徐州へかよせ。女徳が外の援をもち。容易に生捉へ。と
 あり。黎陽を出で。軍を揃へ。袁紹は。八十里へ。互ひに要
 害をむき。さうさう。十月の十日。まゝ。さうさう。審配
 すと暮る。さうさう。田代山と袁紹を逢紀。さうさう。審配

人々大将より「び」祖授うぬと審配と恨むるあるありと審
 配が計策を用ひて遂に不和ありするや袁紹が疑がひ感んず
 んと戦ふことあるも二度も出さずありしや曹操はこれに
 さればアと内変とまどけり袁紹はだめとせむしくひ来ることある
 ども自ら多めて益ありとて撤覇とせむや青州徐州の界と
 まもらば干禁李典と河上よとせむ曹仁と惣大将とて官渡の難
 處に陣とせむとて二軍と引と都へ回りのせむる

関羽張飛擒劉岱王忠

劉岱王忠二人の五万余騎よと徐州と百里へと陣ととり中軍
 の丞相の大旗とせむとて曹操が兵とせむとて投せむとて
 うるべしとせむとて堅く守りて日と候ひ居るも思ひて曹操

使と絶とせむとやにひ蒐とと催促と劉岱とせむとて王忠
 せむとてやれるとて丞相とせむ戦ふことせむとて二軍
 とて敵の慮実とせむとて又王忠とせむとて都と生るとて丞相苦とせむ
 辺とせむと計事とせむとて我の謙とせむと劉岱は
 我の是し陣の大將軍ありとてはとて敵と心と入と王忠は白とて云
 むいととせむと御辺と官爵と高下は「何んと御辺の下は馬と
 詮一度は打向とせむとて曹操が使とせむとて二人争ひとせむとて如
 何んととせむと敵とせむとと得と兵と二手とせむととて打向と
 二人のまもらむとと闖ととせむと王忠先の字とせむとて兵と
 りと徐州の城とせむとて蒐と女徳敵の寄るとと陳登と計事と
 せむと陳登とせむと袁紹十方の兵と起とと黎陽とせむと牛とせむ

手下の謀士不和より、戦うにせしむと日を送る。其の曹操とせらる。詭りの計畧まひつと多岐のあれ。其の袁紹と畏れ、
詭りてみづから向する俸とせ敵と畏れしもの企あらん。玄徳の
いひ、虚実とあらん張飛とせ、其行とんまを
玄徳の曰く、汝の性の躁ちかしく、事と仕損せん。忠と張
飛の曰く、曹操は出あら、松入と持あらん。玄徳の曰く、曹操は漢
の逆賊あれども、天子の勅命と号するよりと名に言川と音
いぬ敵對とせらる。あらん。逆臣とせらる。張飛の曰く、やうの
よとゆめ。手と束と彼とまひと待の。玄徳の曰く、袁紹は
とんと入らる。虚実とせらる。曹操は、大軍はあ

い來る。死する。門あらん。張飛の曰く、他人の勢と抑揚して、味
方の氣とゆる。ゆめ。玄徳の曰く、彼と知りこと知らる。百の戦
と。百の勝ことと。彼とまひと。勝と。負ことと。彼
彼と。百の戦と。百の敗と。萬古不易の理あり。
城の中兵糧の用意とせ。手下の軍兵は都より曹操に
あり。戦と。たの戦と。勝と。得ん。千
一。頼と。袁紹と。関羽と。坐と。滅と。
待。其と。虚實と。来と。三千余騎と率
と。城外と。出れ。王忠と。兵と。進と。十月の半
陰雲四方と。掩ひ。大雪降積りと。寒氣甚と。関羽と。馬
馬と。真先と。出と。王忠と。大音と。曹丞相と。あり。



王忠



関羽

雪中

王忠と
許る

関羽

ちんぞとてや降ざる関羽や、曹操も馬を奪ひて對面し、
 一言と言ふ王忠が曰く曹丞相あんど狂へ、你がよきもの對面
 かん関羽大に怒り馬を飛して射たが、王忠も鎧をひきつて二
 合戦く、関羽誅りて逐走らまゝ、一回首せとて山際へ釋て
 来りしれを関羽まゝ取りて、号ひてかひふ王忠駭た怖れと
 走りぬると関羽刀を左手に持右の臂を「は」のてと王忠鎧の上帯
 と松へ中よりつて、肘をぬく、回りしれを、その勢ぬるの怖きて
 走りぬると関羽が三千余騎いた、あひは乗て追蒐馬を奪と
 校百疋あり関羽いと王忠とまがりて、女徳の前へ出し、女徳問へ
 曰く你あるものあれを誅りて曹丞相と、やうと王忠答へ曰く
 あんど誅らんと丞相もよき命とて、旗をとりて立て、疑兵の計と、

び丞相の袁紹とまがりぬ、不日と来て你ホと生取のへ、女徳
 きぬち衣服とあへ酒を飲せと、とまゐり、又劉岱を生取んと、誅
 む、関羽や、あつと、あつと、兄の曹操は和睦と、あつと、あつと、
 たりと、王忠と生取まゝ、あつと、あつと、あつと、あつと、
 まと、あつと、あつと、張飛の性、あつと、あつと、あつと、あつと、
 彼が行んと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、
 る、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、
 と、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、
 ひし、兗州の刺史「は」と、あつと、あつと、あつと、あつと、
 うるん、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、
 是即、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、あつと、

と彼とあつていへんとて患張飛大腹と立ちあつていへり我とあつて
くんと追ひつゝとつゝのゆゑとあつて彼とあつて我とあつて
償ふべしと。いひらふと。三千余騎と率と打半つていへり
劉岱王忠を生捉ましつゝと馳ひつゝと陣門と守りと誓ひ
張飛直ちとありと勢ひと乘とせつゝと劉岱より
張飛と伯と教目のめいど出たりなれを張飛元來性暴つゝと
しとあつて林ぬ大将ふれを敵の生とる退屈とせつゝと
口とありなるとの内とみと計と案と半と今夜の三更と敵
陣と叔討ますと。との用意とせと主勢のみの相觸つてあつて
いふ酒と飲と詐つと大と酔とる條とふ「谷とあつて士卒
ととて打擲と陣中とあつて後と首と斬と旗と奪り

軍の首途と身入と罵りつゝとあつて友と命とと緇とつゝと
と士卒と遇つと責とる。と恨と舎んと劉岱は
降参し事の中とあつて告とるを劉岱とあつて詭
りあつて信とせつゝと士卒全体と打と血とつゝと
と初と張飛が例の驟暴と出つて今杖とせつゝと
と討とつゝと兵とつゝと陣外と伏と鳴とつゝと
侍居つて張飛の士卒の走りつゝと計成就せつゝと
兵と三手と一手つゝと三十余人二更の夜討とつゝと
敵陣とひ患と二更の勢敵陣の後へつゝと塵と乗と責入と
と約とあつて二更の勢を張飛とつゝと劉岱と
陣の後とつゝと三十余人の賊とほつゝと

とび入るは伏勢とづく起り刃色とぐ内外より討入るとあると思
ふらば陣の後より張飛が二手の勢あちやせんと入夫と放り
兩のまど。劉岱は案を相凌すと。まどを亂すのまどとと落行と
あるは山の後より張飛二軍とさうとて入まどりとも馬とまどと合
は劉岱と引松んと地切まどを回つたを降とのねとまどら女徳
のまどまどいさうのまどまどび関羽とむるまど張飛の元
來まどいさうの男あるまどまど智謀とまどいさうの我まどいさうの思入と
とまど城と出るとまど張飛まどまどと。大音おげとや
るは兄のまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと
まどと。我適言のまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと
と得ん張飛もりなりまど打笑ひ士卒とまど知く劉岱と

出させられを玄徳馬より飛下る縄と解とまどとまどとまどとまどとまどと
弟あままりと無礼とまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと
入るとまど生取とまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと
れらる車曹とまどと我とまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと
誅戮とまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと
とまど丞相のまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと
とまど朝廷とまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと
あやすまどとまどと丞相と告とまどと劉岱王忠拜謝とまどと曰某二
人まどと擣とまどとまどとまどと命と助とまどとまどとまどとまどとまどとまどと
思ある。丞相の御前其二人のまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと
まどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどとまどと

劉岱山王忠とて城とてあるまじく十里をより出らるわぬ勿心然と
 して鼓のよえ地と動し一手の勢路とさへだる二人はぞとこれ
 張飛は眼とつじしてやうらん。見ハかすふとてあつめく
 みふ別のふだどなるく生取たる逆賊と。やうあるととやあ
 とく夫ハの予とまかして馬とて引ひて蒐りしれを劉岱山王忠馬上よ
 と震らあてくわぬ。二人後より馬とてつくと出来り。無礼とさるあ
 とよづりなれを誰とらんといへる。関羽ありし。劉岱山王忠とて
 一と安んぶと。相待の関羽の馬と乗りとやひらけ。兄は二人のあ
 と取りと入るしちゆめあつめくを渡らんとす。張飛は白く
 いふなり。おとつ重くと又来るべし。関羽は白く。重くと来るべし。この村
 一涿すべし。劉岱山王忠とて某二人とて活命の因は

ふむ。丞相の某の三族と滅がととむ。折言と再び来は。顔くを
 ありと放し。張飛やと。たとい曹操がと。来ると。一人も生で
 れ返さじ。いま権三の首と你二人のあつめく。重くときたるとたよ
 請取ん。劉岱山王忠肝を頭とて去られ。関羽張飛も城
 中へ回る。玄德のされる曹操のあつめく。は来らん。い
 と妨ぐべし。孫乾が白く徐州の敵と受と。えく保ちとて城こ
 ありし兵と小沛の屯る。下邳の城と守りと。掎角の勢をひと
 ある。玄德の義とるべしと。関羽の妻子一族と死と下邳
 城のあつめく。孫乾簡雍糜竺糜芳と徐州の城と守りぬ。
 張飛と引具と。小沛の城と守りぬ。
 稱衡赤裸罵曹操



劉備

劉

備



張飛

張

飛

擱
歸陣

子方去者乃とゆてとせとせや利害と説と論さしを不ちよ来り降
 らん孔融の某の家は平原の祢衡守の正平とりよるあり才
 学極ちと高しと生質をのぶとあり言と出せを人と
 多あんと此人心の劉表とまゝと使と
 の曹操や半と對面しるる望とるを祢衡を
 ら怒とる天と作りと長嘆と曰く天地の間猶よと
 人の曹操は白く平下よ名士數十人あり當世の英雄なり
 依るよと人ほ」といふと祢衡は曰く我々の才の比ぶるるを
 きる曹操は白く荀彧荀攸とあ智深く計多かりのあり古
 蕭何陳平はあまほ張遼許褚李典樂進の勇あり者
 は古の本彭馬武もあへず呂虔滿寵從事たり干禁徐晃

先鋒の夏侯惇は天下の奇才曹子孝の世間の福將徐晃は
 才と入る稱衡あは文とやる御辺の言相違なり是ホの人
 人の事をなすに志れり荀彧人の疾と問せ妻と帯かむと首攸
 の墓と守らむと程昱の門と守らむと郭嘉の文と書
 と化らむと張遼の鼓と打せ金と鳴さむと許褚の牛馬と救
 らむと樂進の杖と説くむと李典の書簡と持せと使はむ
 べと呂虔の刀と磨せ劍と鍛むと滿寵の酒と飲と糟と食や
 らむと徐晃の猪と屠り狗とよらむと干禁の背と板と鼻
 と嚙と蔡もむと夏侯惇と肥ゆる將軍と号し曹子孝
 と鐵をらむと守とあむとものろの者たの衣と著らむと衣袴
 とく飯とく飯囊のごとく酒と飲らむと酒桶のごとく肉と



時は乘と。そ中事と起し。ゆへ。又天の御望するをよる。此方へ
 従ひ。ゆへ。曹操と兵と用と。名譽の士。まこと。後さとの勢
 ひ。ゆへ。素紹と破り。ゆへ。兵と東國へ
 入。ゆへ。將軍妨。ゆへ。入。ゆへ。荆州と持。ゆへ。曹
 操。ゆへ。疑。ゆへ。決。ゆへ。曰。ゆへ。都。ゆへ。聖人
 虚実。ゆへ。行。ゆへ。事。ゆへ。韓嵩。ゆへ。聖人
 の節。ゆへ。達。ゆへ。節と守。ゆへ。某。ゆへ。節と守。ゆへ。君臣
 のく。ゆへ。定。ゆへ。死。ゆへ。節と守。ゆへ。命。ゆへ。あり。大
 と。ゆへ。踏。ゆへ。入。ゆへ。辞。ゆへ。將軍。ゆへ。上。ゆへ。天子。ゆへ。志。ゆへ。ひ
 下。ゆへ。曹操。ゆへ。疑。ゆへ。臣。ゆへ。安。ゆへ。御。ゆへ。疑。ゆへ。懐

某と都。ゆへ。天子。ゆへ。官。ゆへ。漢。ゆへ。臣
 と。ゆへ。將軍。ゆへ。故。ゆへ。主。ゆへ。あり。ゆへ。君。ゆへ。在。ゆへ。君。ゆへ。為。ゆへ。と
 入。ゆへ。古。ゆへ。言。ゆへ。ま。ゆへ。天子。ゆへ。命。ゆへ。受。ゆへ。その。ゆへ。本。ゆへ。義。ゆへ。將。ゆへ。軍。ゆへ。の。ゆへ。御。ゆへ。為
 と。ゆへ。あ。ゆへ。の。ゆへ。思。ゆへ。案。ゆへ。劉。ゆへ。表。ゆへ。き。ゆへ。別
 又。ゆへ。高。ゆへ。輪。ゆへ。あり。ゆへ。你。ゆへ。中。ゆへ。都。ゆへ。の。ゆへ。お。ゆへ。れ。ゆへ。韓。ゆへ。嵩。ゆへ。心。ゆへ。と。ゆへ。ぬ
 一。ゆへ。と。ゆへ。都。ゆへ。上。ゆへ。朝。ゆへ。生。ゆへ。貢。ゆへ。物。ゆへ。曹。ゆへ。操。ゆへ。對。ゆへ。面。ゆへ。と。ゆへ。す。ゆへ。ね
 一。ゆへ。と。ゆへ。紹。ゆへ。刺。ゆへ。と。ゆへ。侍。ゆへ。中。ゆへ。零。ゆへ。陵。ゆへ。の。ゆへ。太。ゆへ。守。ゆへ。と。ゆへ。封。ゆへ。と。ゆへ。又。ゆへ。荆。ゆへ。州。ゆへ。と。ゆへ。入
 一。ゆへ。と。ゆへ。心。ゆへ。者。ゆへ。或。ゆへ。ま。ゆへ。と。ゆへ。諫。ゆへ。と。ゆへ。韓。ゆへ。嵩。ゆへ。來。ゆへ。り。ゆへ。都。ゆへ。の。ゆへ。虚。ゆへ。実
 一。ゆへ。と。ゆへ。稱。ゆへ。衡。ゆへ。音。ゆへ。信。ゆへ。も。ゆへ。あ。ゆへ。た。ゆへ。荆。ゆへ。州。ゆへ。へ。ゆへ。入。ゆへ。曹。ゆへ。操
 一。ゆへ。と。ゆへ。笑。ゆへ。と。ゆへ。稱。ゆへ。衡。ゆへ。め。ゆへ。あり。ゆへ。我。ゆへ。と。ゆへ。辱。ゆへ。し。ゆへ。ま。ゆへ。の。ゆへ。入。ゆへ。荆。ゆへ。州。ゆへ。へ。ゆへ。使。ゆへ。せ。ゆへ。し

繪本通俗三國志二續卷之七

劉表羊手と借と。まろきんと何と再び問と。まんと。劉表は
 諸人まふとの高論は彼と韓嵩へ荆州より。劉表はまんと。蘇
 の盛んあるすくと決り。御子一人朝廷に仕官させ。人質と。ま
 ると。此の曹操も疑うと。まんと。まの國あつて。長久まるといひ
 くれ。劉表大いなり。你二のめ。斬と。まんと。韓嵩はけ
 やら。將軍と。まんと。其練とき。まんと。將軍は背
 くと。ま。崩良ま。ま。劉表と練。韓嵩は。都より。ま
 と。ま。再三の事。ま。今ま。ま。ま。ま。劉表
 け。死罪一等。ま。獄中。ま。ま。江夏より。人。来
 り。稱衡まで。黄祖。ま。ま。告。劉表。決。ま。の。仔
 細と問。ま。ま。黄祖。ま。稱衡と酒と飲。ま。に。あ。ま

び酔。ま。黄祖問。ま。御辺都。ま。ま。雜人と英雄と
 む。ま。稱衡。ま。大見。孔文舉。小兒。楊德祖。ま。二人の。不
 む。人と思。ま。黄祖。白。ま。ま。稱衡。白。御
 辺。社の。中の。神。ま。似。り。人の。祭。と。受。ま。ま。の。靈。驗。ま。ま。黄
 祖。大。ま。ま。你。ま。ま。ま。主人。形。ま。ま。ま。ま。ま。ま。折。せ
 る。ま。稱衡。死。ま。ま。ま。ま。ま。ま。決。り。ま。劉表。ま
 む。ま。遂。ま。死。ま。豎。崎。洲。ま。蒸。む。ま。ま。ま。曹操。ま
 徒。ま。曹操。都。ま。あり。と。稱衡。ま。ま。ま。ま。ま。大。ま
 川。ま。ま。ま。ま。ま。府。肉。り。儒。者。の。癖。ま。ま。ま。舌。ま。劍。あり。口。ま
 ま。死。ま。ま。劉表。ま。使。ま。ま。ま。ま。の。偏。ま
 ま。ま。ま。大。軍。と。起。ま。ま。荆州。と。以。ま。ま。と。殺。ま。ま。ま。ま

諫めしむる表紹の平服を玄徳を徐州にありて
ときて東國の復の病と後より手足の瘡と先
まの表紹と平げつた玄徳と除たそのち江漢
と伐つて一鼓して定まるといひる曹操げもとてや
まりたり

曹操三劫吉平

車騎將軍董承の帝の血詔を受てり日杖をんと苦めあま
とと計とめざしと曹操とあるとあまみたるが宗と頼
る玄徳馬騰の都と生去り王子叔ホといそる計と
まぶたやうありたり是のとき月日と送る帝の宸襟と
安めはるとと寝食とらると建安四年の暮と

あふの春立ちりぬま百官とて禁殿と出と朝賀とほ
は曹操猥り大臣とつて公卿と無礼とをいやく口惜たりの
あひはまより氣の病とありと一度休と起ざり帝あ
すとやめされ典藥の大醫と勅と療治とせんと命と
らる太醫吉平ととせらる洛陽の人と世と秀なる名醫
あり詔勅と受と董承の家と行藥ととの入とあて入れを日
よまたがめと効と得たりと董承と常と苦むと長嘆
まると吉平の中とあやしく思ひたる正月十
五日の夜と吉平の上元の佳節なりととあうは生れを董承の傍
の人と酒と飲おむと酔と被とぐめを眠入る目比ひと
事と計る王子服神輯吳碩吳子蘭ひとと来りと事已

成就せり面よりさびぬ入るといふ董承をのりて問ふ王子服下るる
 荆州の劉表河北の袁紹と好むもむの五万の勢を起す西涼州
 の馬騰も并州の韓遂とんとあせり七十万の勢を起さるる日
 と定めり直ちよ都へ及上る曹操を畏れと兵を分ちて諸
 の寄手と妨ぐんとすまの都の内無勢あるるをこほみ人の手
 の集ちを千余入のちあはれ入て曹操府中酒宴
 上元の賀くころを天のあしふる付郎の言はしよ
 せ取囲んでさるる董承大よ表あむ手のものぶらぬぬめ
 り武器とて入るる鎗をひきぎぎと馬を打乗内門を勢と
 とり入るとぞと二更の鼓とらむとぞとち府中へ及入曹操は
 後堂より酒宴とさるとり入ると大音聲とあびて逆賊曹操途

るよとあらんと曰言り剣を抜き斬るる曹操が首地よりと
 の入を俄る睡りて春の夜の夢あり口を曹操に言りて
 るをさつた一人前よきうと御辺の曹操と殺すとす董
 承胆打たれ被とぬ言平を遍身汗とあがり
 るとあらひん言平やると言某を畏れある某
 の曹操が恩顧のものをれらる中あは漢をわれ日比るる
 御嘆たあると無と尋ね問とあり今夜の気色と
 とめえらなされりの某と用ひぬる君の御為三族と
 る董承涙とあがりやると言曹操密は
 指と探らんとあがり言某を畏れある董承とて
 指と咬ちぶり血と生ると言某を畏れある董承とて

新編後三國志 卷之七

四十四

らざとて衣帯の血帯とせとてやれり我はては子力の入とて熱
らんと計とせとてささねぬ女徳馬徳都の内と生たれをせとてま
べを計る日根あへどいづかへ入らくのとて氣の病とまをり吉平
やらの兎角計とせとて「武身と動らさ」とのらひは曹操とせ
とて某の手の中とあり董承自らいづかへぬとて吉平
らる曹操常は頭風と病り起るとたれとの痛骨髄入ら
も某とて薬ととの入らむの如きあはれ眼の毒手とぬい
とよわらふとてあへど兵と備へかたまはるとて董承自ら
志るとたれ漢の天下と中興とせとて御辺二人の功る吉平が
曰く御心と安んぶとまらぬ人彼が病の發るとたれ殺して天下の
殃と除んとてあはれ計とて回らる董承の内らたれとて存る

起と後堂へ入らるが女の秦慶童をのぞらたれとて雲英とい
る妾といとて私訣と居るとしてたれいりて秦慶童と
はろまんともて夫人あはれとて命と請ふ谷と平根とて一聞
るあへど入らるる秦慶童痛く打とると恨んど中鎖
と扱きと堀と踊らるとちと丞相の府へ行たると訴へんと
いひたれを曹操志ぐらるるをいひてとて尋ね問は秦慶
やらのまの目比王子服呉子蘭種輯呉碩ホヒとて董承
家とありなりとてと殺さるらるらば丞相と殺らんと
巧るる董承又縮とたれきらると人の名字とちとて
とて近びり大医吉平が指と咬らると誓とてあはれ
もあやしむるとていひてとて曹操大に驚たれ存る



府中は藏一あるを。董承はいつかよとて、薬をふるまふた奴を
 定て他國へ送去ぬらんとおもひ。かく令殺もせざらん天
 運のわざと。あまは「まじりの日曹操俄く持病の頭風を
 りると沙太く吉平と石寄例のどく薬を調し。吉
 平ははすすたひぢやうい毒薬と懐ふし。まじりまじり府中
 のゆゑ見まじり曹操床のうへ平臥せり。吉平自ら毒
 薬と前が定め一扱よと疾言するも。持来れれを曹操の
 毒のりともつとあへど扱む吉平のうへ内はまじり扱めまじ
 り汗を立ち快らんとし。これを曹操は白く「你なりとる儒
 書と読さだめと禮義とまらぬとあらは」吉平「やうらんと」

くあり禮義とまらざるものひやくも曹操は白く君疾あつとた。
 臣のあつと薬と試み父疾あつとた子もあつと薬と試みまじ
 古今定まる禮義あり你もあつとまの薬と試みまじりまじり。
 吉平「まじりまじり」色とまらぬまじりの薬あり何の試みる
 とひやくとまじりまじり中まじり計の渡ると快りなれまじり曹
 操の耳を掴んで毒薬とまじりまじり推倒され起んとまじり
 と備へまじりまじり縛まじり。曹操「まじりまじり我まじり
 病は」你と裁まじりまじり。新なりまじりまじり」とまじり強くまじり
 獄卒千人とまじりまじり吉平と後園まじり引出せ倒れまじり
 拷問まじりまじり吉平「まじりまじり」頻るまじり常のまじり
 操亭上まじりまじり笑まじりまじりまじりまじり你の医者まじり
 の身まじりまじり

門は出のまじりあるが他人のまじりもあつて我と書せんと巧む
 るべし。その本人とては「出さば君が命を助ぐべし。吉平叱て
 下へ。君と書むは上と書むは逆賊あり。天下の人のいふべし。
 君が國と書むは我一人のまじり。曹操再三人
 とまじりといひしれを吉平怒りて曰く「君と書せしむは今ま
 だ君は従ふり何くぞ他人のまじりや。今するは死のまじり
 ぢや。死めりばつらう。曹操大に怒り。獄卒と下せしむ。さ
 打せしむ。吉平さきも号ひてせしむ。二村あり責めれをば
 肉をけり。血を流し泉のほと。曹操打殺しつら。あつて
 とあひひきびく責めしむ。さ次の日。群臣は酒宴をせしむ。と
 招たひま。董承一人病と号しつら。王子服は四人の疑

ひきんとと畏れ。百官と同一まじり。曹操後堂に。さき
 は持成半酣。みちつと。今日座席あり。興あり。不
 ど。旁の為。笑と催し。酒の酔と醒させや。んと。例の
 の列来。まじり。二十人の獄卒。吉平の頸に。入る。階の
 ト。ひき入る。曹操や。各官の者。さつ。の。西。黨は
 んとあはせ。朝廷。まじり。と。巧む。と。さ。吉平
 ひき。我。まじり。の。と。囚。れ。る。た。今。まじり。彼。が。自。状。を。まじり
 と。獄。卒。に。命。を。さ。し。べ。し。打。せ。し。む。を。吉。平。昏。絶。と。息。を
 え。る。と。水。を。回。り。と。生。出。眼。を。さ。し。牙。を。さ。し。と。
 曹。賊。を。殺。し。と。殺。し。と。あ。まじり。待。と。言。る。曹。操。白。く。苦。
 く。まじり。本人。と。さ。出。せ。と。あ。まじり。你。と。宥。せ。と。吉。平。号。し。と。

乃らふくがころり王莽の超女使あると董卓のまをりて天下皆
 尔と殺さんと願ふをよ一人是のどくあふんや曹操大に怒
 り。えとちや七人尔と加く八人あふんとしひるまを王子服亦四人是
 とまのどくは面と人あひせ針の毡に坐さる地しと膽魂も身
 む沁む曹操機率と下知しつす責む氷とささ絶入る上
 ねなよるびいりども全く畏るる気色あつりしがまがその責とあ
 させ坐と起と内入使者とつと百官を御つり入王子服
 吳子蘭神輯吳碩四人あつと雷りの入夜宴と設けく持成
 んとすひるれを百官いづくへまげむ四人の回るとるる魂も
 天の飛ぬるいもあつて居つる良あつと曹操立上問ふ
 乃ら御辺達ととるも別事あつた四人ひとる董承が家

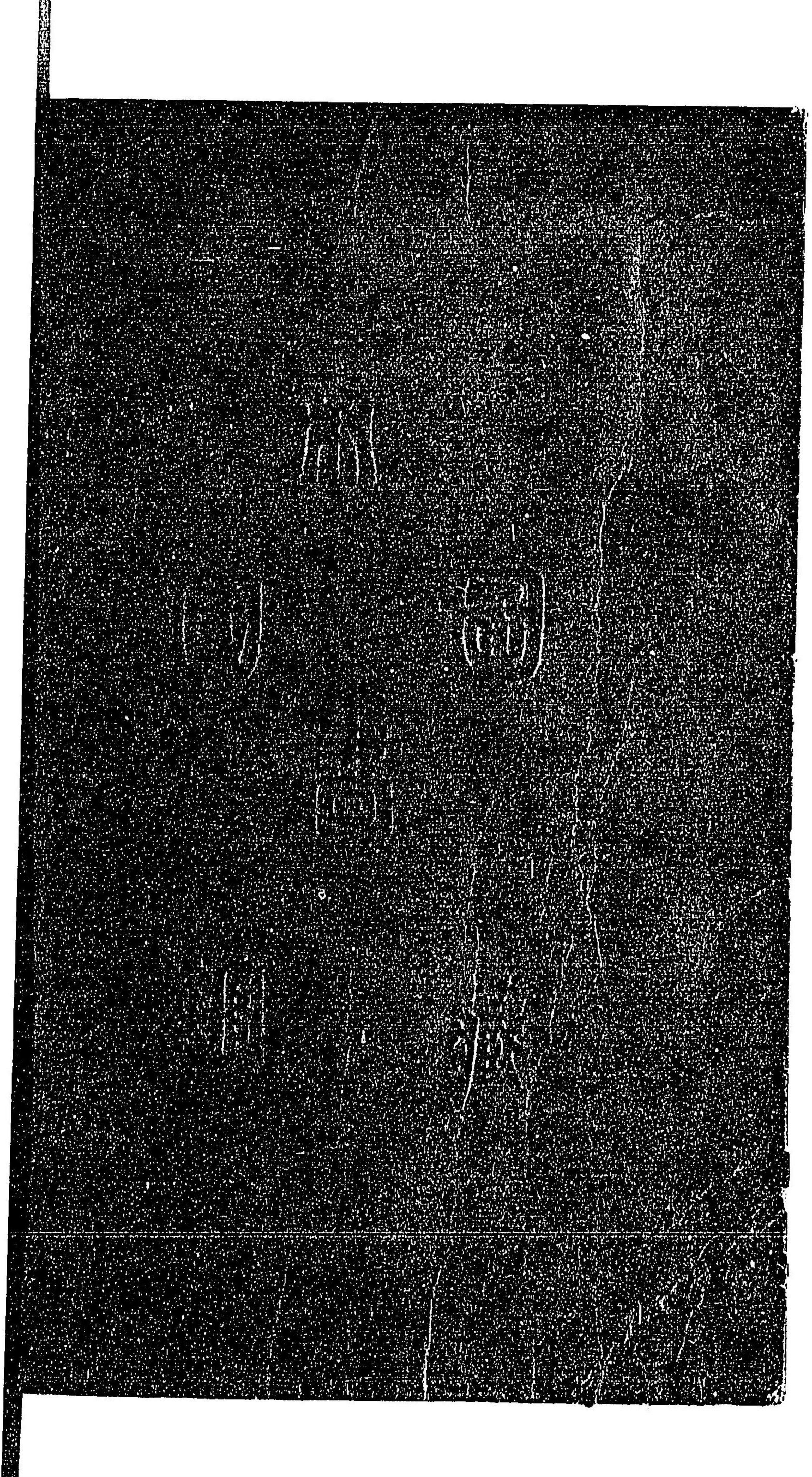
何事と巧とあひんと王子服谷と曰ふをホあま
 とう巧いべたな平生の物熟りとあまの曹操が曰く縮と書たり
 しかあまのぞ王子服が曰ふのりつとまがら曹操やん御辺
 赤らびとつと知らざくと事仔細と明白あつる者あり對
 面とせやと彼秦慶童とび出るとまが王子服あどつひや
 乃ら你あまととあま来るる秦慶童が曰く你亦詠るとあ
 せ。六人一處ありと義杖は名字と書るとるもあつるふ好か
 り。王子服やるとまの董承が妾の密通しとつと責む
 けひその海を出と主人と説言有もあつぬとと丞相は
 たふ人犯人丞相必ず信となすべかはず曹操がいんく
 吉平とつとつと毒くつとつと計董承が所為とあつべ

122
74
38

と。難^{なれ}き^く入^り王子服^{わうしふく}あ^と知^しど^とい^ひは^れた^を曹^{そう}操^{そう}う^いま^ふ
の^の白^{はく}状^{じやう}せ^を你^{なんぢ}が^一命^{いのち}と^宥さ^んす^のめ^りあ^らず^に
必^{かならず}ら^ずと^難義^ぎ三^{さん}族^{しゆく}ふ^かす^べし^早ふ^白状^{じやう}せ^よ王^{わう}子^し服^{ふく}あ^めく
よ^の事^{こと}も^もび^とい^ひは^れた^を曹^{そう}操^{そう}と^いふ^り。武^ぶ才^{さい}命^{めい}と^いふ^り。四^し人^{にん}
と^殺ふ^らん^べし^む

繪本通俗三國志二編卷之七終

122
74
28



122
74
28

繪本通俗三國志

二編
七